



第4章

緑の都市空間づくりの 考え方



第4章. 緑の都市空間づくりの考え方

■緑の都市空間構成について

神戸のもつ地理的・地形的特徴や、これまでの緑に対する取り組みの歴史、緑の現況・特徴等を踏まえると、神戸の緑の都市空間は、大きく3つに分かれます。

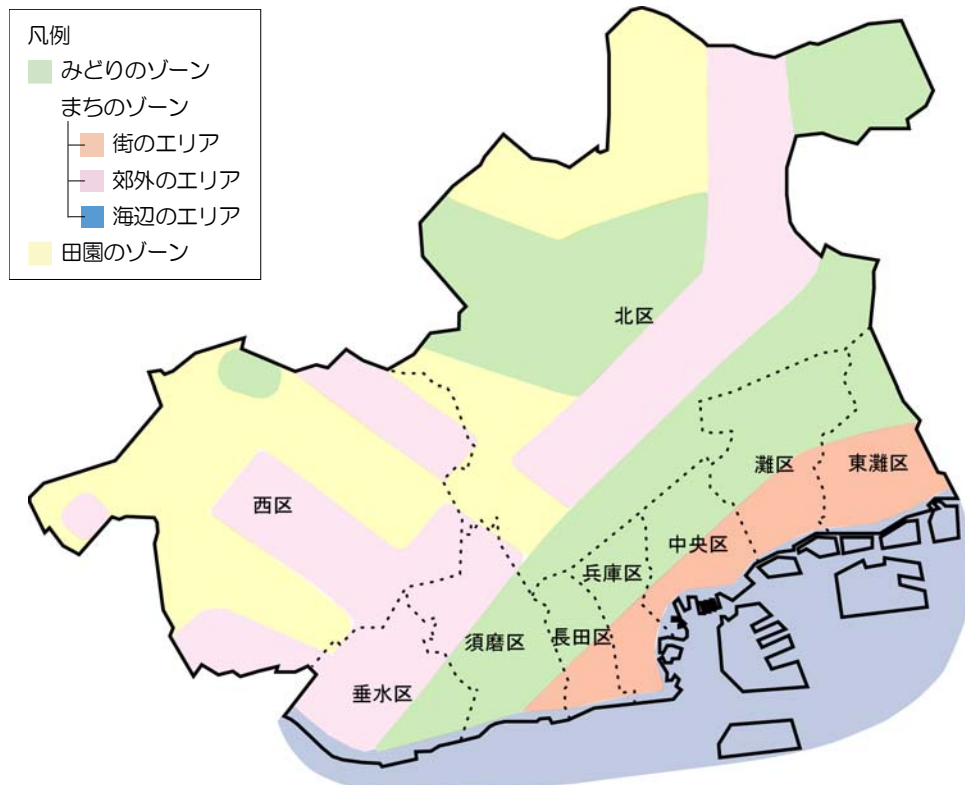
六甲山系や帝釈・丹生山系など都市の骨格を形成し、これまで市民のよりどころとして大切に守ってきた「みどりのゾーン」

六甲山系の南側に形成された市街地や郊外の住宅地などにおいて、庭木や街路樹、河川緑地、公園などの緑を創出してきた「まちのゾーン」

農地・集落・里山など生産活動の場であるとともに、良好な自然環境や景観が広がる「田園のゾーン」

その中で、「まちのゾーン」は、六甲山と瀬戸内海にはさまれた細長い部分に業務・商業機能が集積した中心市街地や六甲山南麓の住宅地などの「街のエリア」、ニュータウン開発により計画的に公園や街路樹などの緑が配置されてきた「郊外のエリア」、開港とともに物流拠点として発展してきた港や、須磨から垂水、舞子にいたる海洋レクリエーション拠点として市民に利用されてきた「海辺のエリア」に分かれます。

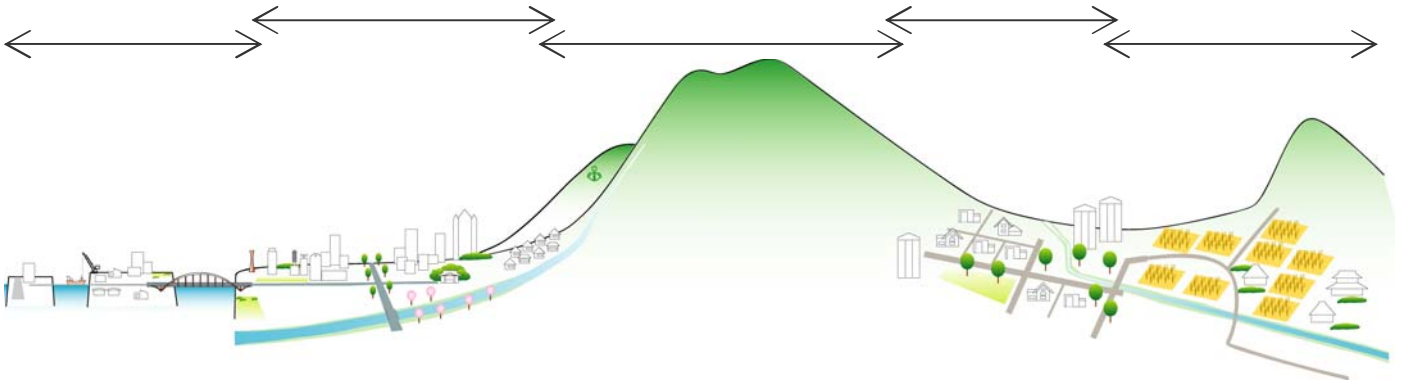
神戸はこれらの特徴的な3つのゾーンが近接し、これらの緑がバランス良くつながっていることで「神戸らしさ」を醸^かしだしています。緑の都市空間づくりを考えていくにあたっては、これらのつながりを重視して、各ゾーンの特徴を活かした施策を展開していきます。



緑の都市空間構成（平面）

各ゾーンの緑の特徴

<p>■まちのゾーン</p> <p>●海辺のエリア</p> <p>瀬戸内海に面する臨海のエリア。都心・ウォーターフロント及びポートアイランド・神戸空港等からなるエリアと、須磨以西の海浜レクリエーションエリアに大別されます。特に神戸らしい港の景観と白砂青松の海浜景観が特徴です。</p>	<p>■まちのゾーン</p> <p>●街のエリア</p> <p>六甲山南麓部に位置し、開港以来形成されてきた市街地で、水害や戦災、震災など幾多の災害を経験しながらも、その都度に復興をとげてきたエリア。公園、緑地、街路樹、河川など公共の緑や、風致地区周辺に残った民有地の緑、境内地の緑が分布しています。</p>	<p>■みどりのゾーン</p> <p>神戸の緑の骨格を形成する六甲山系や帝釈・丹生山系、及び鎌倉峡、雄岡山・雌岡山周辺など豊かな自然環境が残っているゾーン。みどりの聖域*などの法規制や六甲山系グリーンベルト整備事業*などで緑が守られています。</p>	<p>■まちのゾーン</p> <p>●郊外のエリア</p> <p>西北神の丘陵地などで、高度成長期以降に開発された大規模住宅団地などのエリア。計画的に整備された公園や街路樹、周辺緑地などの公共の緑や、住宅地内の庭園や業務地内の緑が分布しています。</p>	<p>■田園のゾーン</p> <p>西北神地域に広がる農地・集落・里山を中心とし、貴重な田園風景や豊かな自然が残っているゾーン。人と自然との共生ゾーン*の指定に基づき、地域住民の参画と協働による「里づくり」や地域の活性化、農業の振興、秩序ある土地利用、生活環境の整備及び農村景観の保全などが進められています。</p>
--	--	---	---	--



緑の都市空間構成（断面）

